

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（英 語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 24 (77%) 2. 7 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 24 (77%) 2. 7 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 24 (77%) 2. 7 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 23 (74%) 2. 8 (26%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 16 (52%) 2. 14 (45%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 26 (84%) 2. 5 (16%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 23 (74%) 2. 7 (23%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 26 (84%) 2. 5 (16%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 22 (71%) 2. 9 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 15 (48%) 2. 14 (45%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 2 (6%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 1 (3%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 15 (48%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 0 (0%)
- 4.その他 : 15 (48%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 6 (19%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 19 (61%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 3 (10%)
- 4.その他 : 7 (23%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答 : 8 クラス (順不同)

- [1] Vocabulary Practice は、一週間前に WebClass にあげて自宅で事前準備できるようにした。
- [2] Vocabulary Practice の動画は、学生が何度も練習できるように一週間前に WebClass にあげている。
- [3] Vocabulary Practice の動画や、意味確認の動画は、授業の一週間前から WebClass にアップして学生が事前に予習できるようにしている。
- [4] 英語教育講座内の業務負担の兼ね合いから、基礎教育の英語科目を後期に 2 科目担当することになった。この授業では、4 技能統合型の教科書を使用し、主にリーディング・ライティングの 2 技能を養成するための授業を行った。昨年度も類似した科目を担当したが、純粋にリーディング・ライティングの 2 技能のみを養成するのではなく、適宜スピーキングやリスニングの学習活動を織り交ぜ、受講生の興味・関心が持続するように配慮した。また、本学教育学部の学生の多くが英語に対する苦手意識を持っているため、授業の冒頭でアイスブレイキングやスモールトークを導入し、苦手意識を克服できるように配慮した。受講生からも、授業冒頭でのアイスブレイキングやスモールトークにより、リラックスして授業に臨めること、また、座席の周囲の受講生と交友の輪を広げられることについて、肯定的な反応が見受けられた。
- [5] 昨年度担当した基礎英語科目(スピーキングとリスニングの 2 技能の育成を主眼とするもの)では、異文化をテーマとする教科書及び視聴覚教材を使用した。教科書の内容が受講生の興味・関心と習熟度レベルに合っておらず、受講生の満足度はそれほど高くはなかった。この点を踏まえ、本年度は音読と Retelling(見聞きした英語の内容を自分自身の英語で再話する学習活動)に焦点を当てた教科書を使用し、英語らしく文を発話するトレーニングや理解した英文内容を自分の英語で言い直すトレーニングを中心に授業を展開した。音読に関しては、受講生の満足度が高く、クラス全体としてもパフォーマンスは良かったため、今後も継続していきたい。一方、Retelling は、受講生にとって壁が高く、英語の単語・句・文を自分のことばで言い換えることには慣れていない様子だったため、次年度以降はよりよい Retelling の成果が得られるように学習活動を段階的に設定していきたい。
- [6] 出席の確認を明確にした。座席表を作成し、教室の出席読み取り機とダブルチェックし、欠席回数を聞かれるとすぐに答えられるようにした。
- [7] 課題における補助教材の作成
- [8] 新しいポイントを教える前に、生徒が能力を発揮する機会を与えること。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 11 クラス（順不同）

- [1] 毎時間ほとんど学生全員とのインタラクションができたし、学生の反応や理解度を確認しながら授業ができたことは評価できる。
- 学習目標の1つ目は、英文を読み日本語あるいは英語でまとめることができる、であったが、これについては、継続的に学習できた。
- 2つ目の、テーマに関して自分の考えを英語や日本語で表現できる、3つ目の、議論や発表を通して思考力、判断力、表現力を伸ばすこと、については、コロナの第八波を警戒し、途中からグループディスカッションの機会が少なくなったことは残念である。
- [2] Vocabulary Practice の動画を作り、学生が何度も練習できるようにしている。また、授業でできるだけ学生が緊張感をもって授業できるよう、マイクを回し学生に答えてもらっている。ペアワークで学生が能動的にクラスに参加できるようにしている。
- [3] 学習目標にそった授業を心がけた。1つ目の目標は、英文を読み概要を把握し、それを英語や日本語でまとめることができる、であった。毎回英文を読み、その概要を日本語と英語でまとめる練習を数回実施した。2つ目は、テーマに関して、自分の考えを英語や日本語で表現できる、である。これについては、英文を読み、そのテーマについて自分の考えを英語でまとめるという課題を課した。さらに、3つ目の、議論や発表を通して、思考力、判断力、表現力などを伸ばす、については、レポート課題を全部で9回ほど課したので、学生なりに調べて、考え、英語でまとめる練習となったものとする。ただし、授業中の議論については、数回実施したものの、途中からコロナ第八波の影響を考え、密を避けるためにグループディスカッションの機会をやめることとなったのは残念である。最後の4つ目の多元的なものの見方・考え方を身につける、については、コロナ第八波のため、授業中に他の学生の意見や考え方を直接聴く機会が途中からなくなったが、レポートやエッセイなどの課題により、学生個人としては時間をかけて考える機会が持てたのではないだろうか。なお、学生が提出したレポートの内容については、次の授業において、全員に報告をすることができた。
- [4] できるだけ学生が緊張感をもって授業できるよう、マイクを回し学生に答えてもらっている。ペアワークで学生が能動的にクラスに参加できるようにしている。
- [5] Vocabulary Practice の動画と意味確認の動画を一週間前から WebClass に UP し、学生が何度も練習できるようにしている。また、授業でできるだけ学生が緊張感をもって授業できるよう、マイクを回し学生に答えてもらっている。ペアワークで学生が能動的にクラスに参加できるようにしている。
- [6] 講義室内の機器に慣れておらず、たまに中断することがあった。
- [7] 問 13 で述べたように、授業の冒頭でアイスブレイキングやスモールトークを導入することにより、受講生の英語に対する苦手意識を克服できるように配慮した。受講生のリフレクションシートから、授業冒頭でのアイスブレイキングやスモールトークにより、リラックスして授業に臨めること、また、座席の周囲の受講生と交友の輪を広げられることについて、肯定的な反応が見受けられた。
- [8] 問 13 で記述した内容と一部重複するが、評価できる点として、音読に関しては、受講生の満足度が高く、クラス全体としてもパフォーマンスは良かったため、今後も継続していきたいと考えている。一方、反省すべき点として、Retelling は、受講生にとって壁が高く、英文の内容を自分のことばで言い換えて説明することには慣れていない様子だったため、次年度以降はよりよい Retelling の成果が得られるように学習活動を段階的に設定していきたいと考えている。具体的には、Retelling の前に、英文の重要語句を抜き出し、抜き出した語句を使って元の英文を復元する学習活動や英文の内容理解を確認するための英語の質問を複数準備し、その質問に英語で回答することで、英文の概要を復元する学習活動等が挙げられる。

- [9] 学生が何度も練習できるように Vocabulary Practice の動画を作成し、単語の定着を試みた。隔週あるライティングクラスのため、課題を出しペアーで互いに書いてきたものを読み合い、質問をさせるようにし、書く機会を増やし、書くことに慣れさせるようにした。
- [10] 授業中のパフォーマンスから、学生の英語力が平均して低いと感じた為、学期の初めの半分の課題の難易度を少し下げました。しかし難易度を下げすぎた為ほとんどの学生が課題で8割以上の成績を収める結果となりました。中間や期末前は時間をかけてしっかりと準備をしていた事から、毎週の課題の難易度はもう少し難しくても問題ないと感じました。
- [11] 課題提出が遅れた場合の評価を厳しくする。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 31 (100%) 2.いいえ : 0 (0%) 未回答 : 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 25 (81%)
- 2.読んで理解する : 28 (90%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 22 (71%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 16 (52%)
- 5.討論する : 15 (48%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 12 (39%)
- 7.その他 : 2 (6%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 16 クラス (順不同)

- [1] 毎授業でのペアワーク・グループワークの導入。クラス全員の前で発表する機会の提供を目的にしたプレゼンテーション大会の実施。
- [2] この授業の重点目標は、読む、書くというスキルを高めることであった。授業では、エッセイの構成とパラグラフリーディング及びパラグラフライティングについて学んだ。その学んだスキルを身につけるために、英文のサマリーライティングやテーマを与えてエッセイを書くという課題を全部で9回課した。聴く、話すというスキルについては、英文の内容について、英語でのインタラクションを実施した。ただし、教室が広いことや、学生さんの声が小さかったりしたため、毎時間相当の時間をかけて実施することにはためらいがあった。
- [3] ペアワークで互いに、得の描写をさせている。
- [4] 毎授業でのペアワーク・グループワークの導入。クラス全員の前で発表する機会の提供を目的にしたプレゼンテーション大会の実施。

- [5] 授業では、英文の構成のあり方、パラグラフリーディング及びパラグラフライティングについて学び、そのスキルを身につけるために、英文でのサマリーライティングや、テーマを与えてエッセイを書くという課題を全部で9回課した。聴く、話すというスキルについては、英文の内容について、英語でのインタラクション（ダイアログ）を実施した。ただし、コロナ第八波の懸念や、教室が広いことや、学生さんの声が小さかったりすることもあり、この活動に時間を割いて行うことにはためらいがあった。
- [6] ペアワークで学生が互いに能動的にクラスに参加できるように、ボキャブラリーのクイックリスポンスや意味確認をさせています。
- [7] 意味確認の動画を流し、日本語を聞いて英文を読んだり、英文を聞いて日本語にしたり、制約された中で声を出させている。
- [8] 聴解力、要約力を身につけられるように促した。
- [9] ペアワーク、グループディスカッション、オピニオンレポート、プレゼンテーションを実施しました。
- [10] Group discussion in response to textbook prompts, peer feedback in preparing for and sharing student Powerpoint presentations in group presentation sessions.
- [11] ① 授業の冒頭でアイスブレイキングやスモールトークを導入し、受講生同士で英語でコミュニケーションを取る態度の育成に努めた。
- ② 期末課題では、授業全体の総まとめとして、家電製品の発達史をテーマとする、英語のプレゼンテーション資料及び発表原稿の作成課題と発表原稿の読み上げ音声の吹込み課題（パワーポイントによる）を課し、探求課題の回答を英語で発信するトレーニングに取り組めるように配慮した。
- [12] 音読に関しては、受講生同士でお互いの音読を(特に良い部分を中心に)評価し合うことで、英語の発音の明瞭さ(相手にとって自分の英語が聞き取りやすいか)や英語らしい英語の単語・句・文の読み方を意識した情報伝達の在り方についての理解を深め、関連する技能を高めることができたように思われる。
- Retelling に関しては、理解した英文を自分のことばで言い換えた文について、受講生同士で意見交換をすることで、一つの英文のメッセージが多様な言語形式で伝達されうる可能性についての気づきを促すことができたように思われる。
- [13] ペアで互いに書いてきたものを発表し、フォローアップ・クエスチョンをすることでコミュニケーション力が上がるようにした。
- [14] グループ間で患者と看護師の約を交互に行い会話を行う活動を頻繁におこないました。
- 反復練習をすることで、医療の場における頻出フレーズをスムーズにアウトプット出来るサポートを行いました。
- [15] 毎授業でのペアワーク・グループワークの導入。クラス全員の前で発表する機会の提供を目的にしたプレゼンテーション大会の実施。
- [16] Students used English in discussing textbook discussion topics, and in rehearsing and providing peer feedback to each other in researching, preparing, and sharing their research presentation sessions four times during the semester.

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい : 5 (16%) 2.いいえ : 24 (78%) 未回答 : 2 (6%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1回～5回：5（100%） 2. 6回～10回：0（0%） 3. 11回～15回：0（0%）
未回答：0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化：5（100%） 2. 政治・経済・産業：4（80%）
3. 自然環境・フィールド体験：0（0%） 4. その他：0（0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：5 クラス（順不同）

- [1] 宮崎にはウクライナをはじめ、避難してきた外国人がいることを取り扱った。その避難民を日本としてもっと受入れられるべきかどうかについて、レポート提出を課した。
- [2] 地域の特色ある文化について作文を書かせている。
- [3] 宮崎にはウクライナをはじめ、避難してきた外国人がいることをテーマにした。そのような避難民を日本としてはもっと受入れるべきかどうかについて、レポート提出を求めた。
- [4] 地域の特色ある文化について作文を書かせています。
- [5] 地域を紹介する文章を書かせている。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1. 0%：0（0%） 2. 10%以内：0（0%） 3. 10%～20%：0（0%）
4. 21%～30%：0（0%） 5. 31%～40%：4（13%） 6. 41%～50%：3（10%）
7. 51%～60%：5（16%） 8. 61%～70%：0（0%） 9. 71%～80%：4（13%）
10. 81%～90%：1（3%） 11. 91%～100%：13（42%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）：1（3%） 2. 双方向（対話・討論）：24（77%）
3. グループワーク：22（71%） 4. フィールド型：0（0%） 5. メディア活用：18（58%）
6. TA活用：0（0%） 7. その他：5（16%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：9 （29%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：19 （61%）
- 3.英語のみで板書している：8 （26%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：17 （55%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：12 （39%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：17 （55%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：14 （45%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：11 （35%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：18 （58%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：17 （55%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（保健体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2 (50%) 2. 2 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 3 (75%) 2. 1 (25%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 0 (0%) 2. 4 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 0 (0%) 2. 4 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 0 (0%) 2. 2 (50%) 3. 2 (50%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 4 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 2 (50%) 2. 2 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0 (0%) 2. 2 (50%) 3. 0 (0%) 4. 2 (50%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0 (0%) 2. 4 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 0 (0%) 2. 4 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：2 (50%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：4 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：4 (100%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：4 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 1 クラス (順不同)

[1] 学生の実態に応じて、課題の難易度等を調整した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 1 クラス (順不同)

[1] 学生の実態と、こちらの到達目標へ向けた学習教材の提供の仕方に乖離があり、摺り合わせが難しかった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

- 1.はい：4 (100%) 2.いいえ：0 (0%) 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：0 (0%)
- 2.読んで理解する：0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：0 (0%)
- 5.討論する：0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：0 (0%)
- 7.その他：4 (100%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 2 クラス（順不同）

[1] チームの作戦を話し合い、実践し振り返る

[2] 非言語的コミュニケーションを意図したペアやグループでのアクティビティを取り入れた。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：0（0%） 2.いいえ：3（75%） 未回答：1（25%）

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：0（0%） 2.6回～10回：0（0%） 3.11回～15回：0（0%）

未回答：0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：0（0%） 2.政治・経済・産業：0（0%）

3.自然環境・フィールド体験：0（0%） 4.その他：0（0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス（順不同）

E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：0（0%） 2.10%以内：0（0%） 3.10%～20%：0（0%）

4.21%～30%：0（0%） 5.31%～40%：0（0%） 6.41%～50%：0（0%）

7.51%～60%：0（0%） 8.61%～70%：0（0%） 9.71%～80%：0（0%）

10.81%～90%：2（50%） 11.91%～100%：2（50%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：0（0%） 2.双方向（対話・討論）：0（0%）

3.グループワーク：2（50%） 4.フィールド型：0（0%） 5.メディア活用：0（0%）

6.TA活用：0（0%） 7.その他：2（50%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：0（0%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）
- 3.英語のみで板書している：0（0%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：0（0%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：0（0%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（ 専門教育入門セミナー ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 34 (87%) 2. 4 (10%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 28 (72%) 2. 8 (21%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (3%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 28 (72%) 2. 10 (26%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 29 (74%) 2. 9 (23%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 24 (62%) 2. 12 (31%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (3%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 30 (77%) 2. 9 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 28 (72%) 2. 11 (28%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 21 (54%) 2. 13 (33%) 3. 5 (13%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 25 (64%) 2. 11 (28%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (3%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 28 (72%) 2. 9 (23%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：6 (15%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：29 (74%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：3 (8%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：14 (36%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：28 (72%)
- 3.他大学のFD活動の視察：6 (15%)
- 4.その他：2 (5%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 11 クラス (順不同)

- [1] 講義内容を集約した内容のプリントを配付した。
- [2] この科目はオムニバス科目なので授業評価を個々の教員レベルで改善に使うのは難しく、改善に使っていない。
- [3] Better PP slides.
- [4] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [5] 授業担当回数が減った分、どのように補い、目標達成するかと内容を凝縮するように絞った。とくにディスカッションに時間を割き、学生同士の気づきを促進することを大事にした。
- [6] 意欲的に取り組めそうな教材に変更した。
- [7] 課題意識の低い学生に対して、発表用スライドのまとめ方など具体的なアドバイスをを行った。
- [8] 昨年度は、英語学における文法の内、文の構造、文の意味、文の情報構造に焦点を当て、学校英文法と英語母語話者の文法知識の違いを踏まえて、学校英文法を再考するための講義及びレポート課題を実施した。
本年度は、より学習者主体の学びを重視し、上記3つのトピックについての簡単な講義に加えて、学習英文法と英語母語話者の知識の違いをテーマとする学術書を読み、将来英語教員を目指す養成段階の学生にとって有益と思われる情報をまとめた英語コラムの作成課題を実施した。
受講生は、英語コラムの作成及び作成したコラムの発表活動を通して、学習英文法に基づいて英語を学んだり、教えたりする際の注意点を探り、その内容を他の受講生に分かりやすく説明するための発表に取り組むことで、より深い知識の定着につながったものとする。
- [9] 昨年度の気づきを今年度に取り入れて、学生に対して積極的に話しかけを行った。
対応に苦慮することもあったが、話しやすい環境作りを積極的にすすめた。
- [10] グループワークで積極的に作業に関われない学生への声掛けの頻度を増やした。
- [11] 学生からより意見を聞くようにした。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 10 クラス（順不同）

- [1] 学生からより多くの意見や質問が出るように改善していきたい。
- [2] このアンケートの建てつけ全体に対するコメントを記述する欄が見当たらないので便宜的にここに書きますが、アンケートの質問項目に単独での科目担当教員、あるいは複数教員が担当する科目のコーディネーターが回答することを想定した内容が含まれているので、オムニバス科目についてはコーディネーターのみ回答するよう変更したらどうでしょうか？具体的には問 23 はオムニバス科目の場合はコーディネーターが答えることが適切だと思いますが、1 コマ担当した教員も回答しない選択肢がなく、何らかの数値を選ばないといけないので少し違和感がありました。問 10 や問 19 以降も、設問の雰囲気からは個々の 1 コマ担当教員が答えるというより科目全体で答えることが想定されているような質問のように感じました。
- [3] 古典の訳をもとに授業展開しようとしたが、学生たちの旧漢字旧仮名遣い文献へのとまどいを予想できなかった。
- [4] 学生の今後の学習課題を明確にすることができた。
- [5] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [6] ディスカッションの活性化には、どうしても受講生同士の親密度や相互理解に影響される部分があり、学修目標に対して何をすべきか、受講生それぞれが自身にとって何が必要か、を自覚して臨むようさらに周到に教材の準備をしていきたい。
- [7] 評価できる点としては、英語コラムの作成タスクを課すことで、多くの英語学習者にとって壁が高く、英語嫌いを生むとされる文法の重要性和魅力を、受講生の視点で互いに伝え合う良いきっかけになったと思われる。
反省すべき点としては、英語コラムを作成するための情報源や資料（図書館の書籍を含む）の数が限られるため、受講生の興味・関心に十分対応することができなかった点である。今後は情報源の確保と資料の整備に努めていきたい。
- [8] 前期の「大学教育入門セミナー」終了後に実施した"基礎教育分野別検証部会"での意見交換を元に、学生がインターネットを利用した文献調査をする際の注意点や図書館 HP の利用方法などを、改めて具体的に授業内で紹介して、学生の文献調査内容の向上を図った。
- [9] 教科書選定に時間をかけ、よりよいものを選ぶべきであった。
- [10] 教員の研究紹介や企業説明会の質疑応答において、学生の積極性がなかった点について改善が必要に感じた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：35 (90%) 2.いいえ：4 (10%) 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：20 (57%)
- 2.読んで理解する：14 (40%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：21 (60%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：22 (63%)
- 5.討論する：12 (34%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：16 (46%)
- 7.その他：1 (3%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 9 クラス (順不同)

- [1] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [2] 自分の考えを他者に伝える、または他者の考えに対する質問をすることでコミュニケーション能力の向上を図った
- [3] 事前に課題に対する意見を文章化させ、それを持ち寄って、ディスカッションする機会を設けた。また、テーマ別にグループ化したため、それぞれのグループで出た意見を発表させた。
- [4] 各自で調べた内容を授業の中で発表させている。
- [5] ルーブリックを公表することで、注意すべき点を学生に周知した。
- [6] 受講生全員が、個人発表、グループ発表、グループポスター発表の3回を経験し、そこでの質疑応答を行うことで、コミュニケーション能力の向上を図った。
- [7] 興味を持っている専門分野に関して文献を調査して、調査内容をレポートにまとめ、スライドを作成し、5名程度のグループ内で発表し合った。
- [8] ピアレビューを取り入れた。学生が相互に評価し、それをフィードバックさせるため、伝える能力も育成されたと考える
- [9] ミニレポートを課して学生のFBを図った。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：18 (46%) 2.いいえ：19 (49%) 未回答：2 (5%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：17 (94%) 2.6回～10回：0 (0%) 3.11回～15回：0 (0%)
未回答：1 (6%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（ 現代社会の課題 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 12 (67%) 2. 6 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 13 (72%) 2. 5 (28%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 9 (50%) 2. 9 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 10 (56%) 2. 8 (44%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 13 (72%) 2. 4 (22%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 8 (44%) 2. 9 (50%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 11 (60%) 2. 5 (28%) 3. 1 (6%) 4. 1 (6%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 6 (33%) 2. 9 (50%) 3. 3 (17%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 11 (61%) 2. 6 (33%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 12 (67%) 2. 6 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (6%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：14 (78%)
- 3.他大学のFD活動の視察：2 (11%)
- 4.その他：1 (6%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：6 (33%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：14 (78%)
- 3.他大学のFD活動の視察：4 (22%)
- 4.その他：1 (6%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 9 クラス (順不同)

- [1] 昨年度は、大きな課題などは指摘されていないが、満足度が高かったリアクションペーパーを用いた質疑応答や解説など丁寧に行った。
- [2] リモートの授業を取り入れた。教材に新たな文献を加えた。
- [3] これまでの受講生の様子を参考に、今年度の受講生の実態や要望等に合わせて、計画・実施するように意識した。
- [4] 改善点というわけではありませんが、他学部の学生と意見を交わせるという点への評価が高かったため、引き続き同様の機会を多く設けるようにしました。
- [5] 当事者の方にも講師をしていただき、直接話を聞くことができるよう改善した
- [6] 昨年度もそれなりの評価であり、わかりやすさと関心の喚起を心がけている。
- [7] 改善点としては下記の3点：
 - ・授業内容が難しかったとの声が多数見られたので、教科書・授業のレベルを適切なものに変更した。
 - ・前回はLecture型の授業が中心であったため、途上国に関する理解が進まなかった。よって、NGOや他の先生等の協力を得て、オンラインで現地と繋ぎ、現地の人への質問などを行うなどInteractiveな授業を行うことにより、学生への途上国やSDGsに関する興味関心を高めた。
 - ・昨年度も環境省の職員とコラボしたが、オンラインで授業を実施しただけであり、折角の機会をあまり活用できていなかった。よって、今回はSDGsのカードゲームを「国際協力入門」と合同で実施することにより、学生の開発途上国に対する興味関心を惹起した。
- [8] 工学系以外の学生にも理解しやすいように、説明を詳しく行った。
- [9] 昨年度は学生の満足度が高かったため、特に改善はしていない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 8 クラス (順不同)

- [1] 最後の報告会の段取りが甘く、時間が超過してしまった。次の予定がある学生に影響が出てしまった。
- [2] ディスカッションスキル、ライティングスキルを学生が楽しみながら学んでいることがうかがわれた。

- [3] 自身の体調不良により 1 月に 2 回休講としてしまいました。全員の前で講義主題に関するプレゼンを行うという重要な回だったので、体調管理に十分気を付けなくてはならないと思いました（プレゼン動画はオンラインで各自提出してもらいました）。
- [4] 実際に医療や教育の支援を来なっている講師に講義していただいている。
- [5] 昨年度もそれなりの評価であり、わかりやすさと関心の喚起を心がけている。
- [6] 時事問題が含まれる箇所があるので、そうした内容を取り上げる際にはできる限り新しいデータや新たな事例などを紹介し、授業での学びが社会的課題の理解や解決策検討につながるように努めた。
- [7] 特記すべき点：基礎科目重点配分を使用し、2022年10月25日、福岡慶三環境省近畿事務所課長及び宮崎県内の SDGs ファシリテーターを招聘し、SDGs の理解を深めるカードゲームを用いたワークショップを実施した（詳細に関しては授業資料（添付資料）を参照。なお、「国際協力入門」との合同授業として 330 記念会館にて実施した。学生、教職員併せて約 100 名が参加した。
- 両授業の学生とも、本ワークショップを通じ、SDGs に関する理解が深まった（意見例：SDGs は「自分事」であることが分かった、先進国と途上国との関係性分かった等）との肯定的な感想が多く見られた。また、教職員にも概ね好評であった。
- [8] 学生が能動的に学習できる教材になっていた。

Q15. FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 2 クラス

- [1] 障がい者支援入門.zip
- [2] 20221025_宮崎大学 2030SDGs ゲーム完成.pdf

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16. 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1. はい：15 (83%) 2. いいえ：3 (17%) 未回答：0 (0%)

< Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください >

Q17. 下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1. 聞いて理解する： 8 (53%)
2. 読んで理解する： 5 (33%)
3. 自分の考えをまとめて話す： 8 (53%)
4. 自分の考えを文章にまとめる： 8 (53%)
5. 討論する： 9 (60%)
6. 皆の前でプレゼンテーションする： 6 (40%)
7. その他： 3 (20%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 8 クラス（順不同）

- [1] グループワークで PPT を作成し、報告会を実施した。
- [2] レポートのピアレビュー。
- [3] 聴覚障がいでは、ノートテイクの講義を行い、コミュニケーションに非常に関連している内容となっている
- [4] ワークショップ形式のグループワークを、土曜に 2 コマ分使って 2 回実施。
90 分の枠に収まらない深い議論ができる。
- [5] 中華世界を考えたり、世界平和のために求められるコミュニケーション能力とは何か、といった本質的な問いについて考察する機会を得られるようにした。
- [6] 観光分野で求められるコミュニケーション能力とは何か、といった本質的な問いについて考察する機会を得られるようにした。
- [7] ディスカッションの時間を増やした・アイスブレイクの際に、学生同士の発話を促すように工夫した
- [8] Web サイト作成をグループ演習にして、それまでに学んだ Web ページ作成の内容の活用、分からなかったことの復習をグループ内で出来たと思う。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19. 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1. はい：9 (50%) 2. いいえ：9 (50%) 未回答：0 (0%)

< Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください >

Q20. その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1. 1 回～5 回：9 (100%) 2. 6 回～10 回：0 (0%) 3. 11 回～15 回：0 (0%)
未回答：0 (0%)

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化：3 (33%) 2. 政治・経済・産業：4 (44%)
3. 自然環境・フィールド体験：1 (11%) 4. その他：5 (56%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス（順不同）

- [1] 宮崎のデータを活用し、身近な話題をテーマにした。
- [2] 都城唐人町について詳細に扱った。
- [3] 途上国のことだけでなく、宮崎の開発/発展に関しても題材にした授業の一部へ取り入れた

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：1（6%） 2.10%以内：0（0%） 3.10%～20%：2（11%）
 4.21%～30%：1（6%） 5.31%～40%：0（0%） 6.41%～50%：4（22%）
 7.51%～60%：0（0%） 8.61%～70%：0（0%） 9.71%～80%：1（6%）
 10.81%～90%：3（17%） 11.91%～100%：6（33%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）：4（24%） 2.双方向（対話・討論）：7（41%）
 3.グループワーク：11（65%） 4.フィールド型：0（0%） 5.メディア活用：7（41%）
 6.TA活用：0（0%） 7.その他：4（24%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている：0（0%）
 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：1（6%）
 3.英語のみで板書している：0（0%）
 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：5（28%）
 5.英語のみの教材・資料を使用している：1（6%）
 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：2（11%）
 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）
 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）
 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）
 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（ 学士力発展科目 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 61 (79%) 2. 15 (19%) 3. 1 (1%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 56 (73%) 2. 21 (27%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 52 (68%) 2. 25 (32%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 61 (79%) 2. 16 (21%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 49 (64%) 2. 28 (36%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 62 (81%) 2. 14 (18%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (1%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 51 (66%) 2. 18 (23%) 3. 4 (5%) 4. 2 (3%) 未回答 2 (3%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 49 (64%) 2. 18 (23%) 3. 8 (10%) 4. 2 (3%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 47 (61%) 2. 30 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 52 (68%) 2. 23 (30%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 2 (3%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 12 (16%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 39 (51%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 10 (13%)
- 4.その他 : 21 (27%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観 : 26 (34%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加 : 41 (53%)
- 3.他大学のFD活動の視察 : 22 (29%)
- 4.その他 : 19 (25%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答 : 22 クラス (順不同)

- [1] 学生への説明がきちんと伝わっているか、学生との対話を通して確認するようにした。
- [2] 各回の授業を関連づけ全体の一貫性を高めた点。対面によるグループディスカッションを積極的に導入した点。
- [3] 対面可能となった中でグループワークにより社会人基礎力の涵養実践に注力した。
- [4] 学生からのフィードバックを次の講義に生かせた。
- [5] 学生がリアクションペーパーを書く時間を残すように努めた。
- [6] 理解度を高めるために授業内容を調整し、講座内で簡単なデモ実験や受講生による作業を取り入れた。
- [7] 学生同士が考えて教え合い、楽しむエクササイズ of 創作機会などを設けた。
- [8] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [9] 講義内容のアップデートに努めた。対面での講義に戻した。
- [10] 昨年度受講した学生からの意見を基に、重点をおくポイントを変更した。
- [11] 昨年度の評価はあくまでも参考程度で、今年度の受講生および実習地の関係者等と相談しながら計画を進めた。
- [12] 関心をもってワークに参加できるように事前にアンケートを行い、結果を授業の中で紹介した。
- [13] 昨年度、実施できなかった対面でのワークショップ (アクティブラーニング) を実施し、学生の興味・関心を踏まえて授業を行った
- [14] 技術者として定着させたい知識やスキルを絞って授業を行った。
- [15] 学生の対話の促進、テーマに沿ったワークショップの開催
- [16] ドイツ語の文法や読解の説明を次回の授業でまとめて繰り返すことにより理解をし易くした。
- [17] ほぼ毎週確実に小テストを実施し、できる限り翌週には返却をするようにした。
- [18] 昨年度に比べ対面授業の割合が多かったため、みんなの前でのプレゼンテーションなどアクティブラーニングを充実させることができた。
- [19] Q&A の指導
- [20] リスニング課題で出したものを授業中にスクリプトを提示し、確認をした。ただし、課題を出したすぐ後ではなく、リスニングの授業時に行った。
- [21] リスニングの内容の授業が終わった時点でリスニングのスクリプトを説明を加えて解放した。
- [22] I introduced more outside reading texts

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 26 クラス（順不同）

- [1] 学習の振り返りの意義を理解させることができた。
- [2] 評価できる点は学習効果である。他の科目における学習の充実、あるいは学期中の他の活動への波及効果がはっきりと認められる。
- [3] 社会人講師として「実学」を意識しつつ、講義の一貫性を持たせるためにゲストを厳選少数とし小職が流れをコントロールできた。
- [4] 今年度新設した科目だったが、授業内容・教材や授業の進め方などは良かったと考える。反省すべき点は、毎回の課題提出方法を授業前から決めていたわけではなかったため、学生に混乱を与えてしまった点。あと、レポート課題の量や難易度を考え直し必要があるのかもしれない。
- [5] 学生に希望を与えるような講義はついぞできなかった。
- [6] 時事問題を扱っているので、できるだけ最新データを用いて事例を説明するようにした。
- [7] 扱うトピックの幅を広げると、学生の興味をもっと惹きつけられたのではないかと考えられる。
(今回は一つのトピックを深く掘り下げる内容だった。)
- [8] 評価できる点は、講座内で簡単なデモ実験や受講生による作業を取り入れたことで受講生の関心が得られたことである。授業内容を調整し受講生のペースに合わせて対応した。
反省すべき点は、数理 DS に関してデータ課題を入れたが当講座の受講生からは殆ど興味関心を得られなかったことである。なぜならば受講生は生活の中の物理現象に興味があり受講登録したためである。したがって今後はシラバスを含めて内容を見直す必要がある。
- [9] 主体性を強制しては、主体性と言えない。この点について、受講生の興味関心をいかに引き出すか、あるいは、主体的に課題を実践したくなるような体験機会をどのように作るかを毎年考えているが難しい。
- [10] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [11] 評価できる点：毎回のレポート（いわゆるミニッツペーパー）の内容で、他の学生の参考になる良質な内容のものは、なるべく次回講義で紹介することで、学生が多様な意見を交わすこと、良い着眼点や優れた問題意識といった部分を参加者で共有する、という体験型の要素を疑似的に取り入れている。
- [12] 私の受け持ち範囲では、高校で生物を選択した学生と、そうでない学生とで理解度に差がみられる。来年度は、できるだけ、その差が少なくなるような内容に改善したいと考えている。
- [13] 今年度は、台風 14 号による災害で、実習直前に中止、延期を余儀なくされるなどのトラブルがあり、計画の練り直しなどがあり、受講生にも関係者にも例年以上に負担が大きかったと思われる。
- [14] web コンテンツの授業を含んでおり、受講生にはシラバス等を通して、科目の履修条件を明確にした。特にトラブルが無かったため、継続してきちんとした履修説明を今後も行いたい。
- [15] 課題の回答学生にをさせる時、すぐに正解を言わずに、学生自らが正解に導かれるように対話することにより導いた。
- [16] 毎回、授業内容についてアンケートを行い、疑問点などを出してもらった。それを次回（以降の）授業の際、クラス内でフィードバックすると、当該学生以外からも次の質問などが来るようになった。他には、欠席した場合も含め、教材資料と翌週の小テスト範囲を WebClass にアップすることで、次回の授業に備えることができるようにした。

- [17] 授業補助（TA）の活用、対面とオンライン授業の適切な融合などによって、最大限の学習効果をもたらすことができたと考える。
- [18] 授業中の英語での発言は評価が難しい
- [19] すべてのクラスで英語のディスカッションの量を評価することは困難であった
- [20] 授業を基本全て英語で行いましたが、学生にとって初めて聞く難しい内容の説明の場合あまり理解を得られている感覚がありませんでした。例としてエッセイの書き方の骨組みの説明を英語で説明しましたが、学生にとっては初めての試みだった為、指定した構成でエッセイを提出出来なかった学生がいました。次回からはクラス的环境から日本語を使用するバランスを調整する必要があると感じました。
- [21] 予習課題として、単語の動画を毎回、農学部の学習に関係のあるリスニング課題を 10 回分、Work Sheet でテキストの内容を WebClass にあげて、授業に積極的に参加できるようにした。また、授業の終わりには、Review Quiz を毎回行った。
- [22] とかくリスニング力が弱いといわれていますが、毎回リスニングのディクテーション課題を出すことで少しでもリスニング力の向上に貢献できたのではないかと思います。また、語彙力を伸ばすために動画の利用と、語彙穴埋め問題で補完した。
- [23] 受講生全員が英語を使い、自己表現し、専門について口頭で話ができるようになるという目標が達成できた点は自己評価できる。
- [24] The level of the textbook was a bit too low for the students level
- [25] 非常勤講師とのチームティーチングでクラスを 2 つに分けて指導したため、教員からの連絡が学生全員に十分に行き届かないこともあった。その点は、WebClass での全員一斉への案内で補完するように努めたが、来年度に向けて教室での連絡と WebClass との併用を徹底する必要がある。非常勤講師が日本語を運用しないため、学生への必要なメールや連絡を日本語で補助するように工夫した。工学部学生の多くが海外渡航や国際交流の情報を持っていないため、関連情報を整理して共有した。
- [26] 初めて開講した科目だったので、試行錯誤する点も多かった。学生の要望も取り入れながら内容を決めていった点は評価できる。

Q15. FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 1 クラス

- [1] いろいろな海外渡航のカタチ.pdf

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 61 (79%) 2.いいえ : 14 (18%) 未回答 : 2 (3%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 51 (84%)
- 2.読んで理解する : 46 (75%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 39 (64%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 40 (66%)
- 5.討論する : 31 (51%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 33 (54%)
- 7.その他 : 10 (16%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 23 クラス (順不同)

- [1] レポートについて自己評価、総合評価をおこなう。
ライティングスキルについてグループディスカッションをおこなう。
- [2] ランダムグループ構成で他学部との交流と最終5回の固定グループでの課題研究・発表会準備で積極的傾聴の姿勢とアサーティブコミュを実践できる様に心掛けた。
- [3] グループ活動を通して自分の意見をしっかり伝え、グループのメンバーの意見を聞き、さらにそれをまとめるという能力を育成することに力を入れた。グループの意見をまとめて発表する役割も毎回違うメンバーにさせることで、全員がグループの他メンバー、受講者全員、先生と積極的にコミュニケーションできる授業雰囲気を作ろうと取り組んだ。
- [4] 講義要約(150字)と感想(50字)を毎回課題レポートとして提出させた。
- [5] 講義の要約と感想を200字で書かせた。
- [6] チームの作戦を話し合い、実践し振り返る
- [7] 非言語的コミュニケーションを意図したペアやグループでのアクティビティを取り入れた。相互に観察し合うチェックシートを活用して、相互に話し合い、教え合うコミュニケーション機会を多く取り入れた。
- [8] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [9] レポート内容について、いわゆるミニッツペーパーを意識して、単に習った内容を要約するのではなく、学びから感じたことや認識の変化、将来に活かしたいことといった観点での感想・意見を記載するよう促したこと。
- [10] ワークショップ形式(1グループ5～6名程度)の授業を取り入れ、ディスカッションからその内容をビジュアルにまとめ、アウトプット(プレゼンテーション)、講評会までを実施した
- [11] 課題の回答の際に、学生との対話により、自力で正解に辿り着くように心がけた。
- [12] できるだけ多くの授業補助を雇用し、授業中に留学生とコミュニケーションをとりながら受講ができる環境を提供した。
- [13] 少人数の受講者数を生かし、授業補助のTAを受講者一人ひとりにつけることで留学生とコミュニケーションをとりながら受講できる環境を作った。

[14] 英語でのプレゼンテーションと質疑応答

[15] 学期を通して4つのトピックについて学習をしましたが、各トピックの最後に調べ学習としてグループでプレゼンテーション作成を行いました。トピックの決定、作業の割り振り、進捗状況の確認、発表といった様々な場面で学生間でコミュニケーションを行う機会を設けました。

[16] 書く能力の育成では、リーディング教材提供後、理解度確認問題で、リーディング内容を基に自分の考えを書く課題を提供しました。

1学期を通して4つのトピックを扱いましたが、各ユニットでは調べ学習をプレゼンテーション形式で発表する活動を設け、話す能力とグループ間で討論する機会を設けました。

[17] 単語力、リスニング力がコミュニケーションの基本であるので、学生が授業の1週間前から単語の予習ができるように、Vocabulary Practice の動画や、リスニング課題を WebClass にあげた。

[18] ペアワークでのボキャブラリ確認や、文章確認。

[19] 全ての受講生が英語を使い、口頭で自己表現できることを目指し、その機会を与えた結果、無口だった受講生を含み、全員がそれなりの英語での自己表現と専門についての話ができるようになった。

[20] 毎授業でのペアワーク・グループワークの導入。クラス全員の前で発表する機会の提供を目的にしたプレゼンテーション大会の実施。

[21] TOEIC L&R 問題集を使った毎回の演習が、聞いて／読んで理解する力を養う活動であった。また、ポスター発表をゴールの一つに設定し、そこに向けて普段の授業から記事を読んで理解した上で自分の考えを述べる活動が取り入れられた。さらには、TOEIC S&W を意識したクイックディベートを導入し、テーマに沿って自分の意見を述べる活動に取り組んだ。

[22] Group discussions and presentation practice, leading to poster session.

[23] ディスカッション、調査レポート、プレゼンテーションを行なった。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：18 (23%) 2.いいえ：55 (72%) 未回答：4 (5%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：12 (67%) 2.6回～10回：1 (5%) 3.11回～15回：5 (28%)
未回答：0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：13 (72%) 2.政治・経済・産業：10 (56%)
3.自然環境・フィールド体験：4 (22%) 4.その他：3 (17%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 6 クラス（順不同）

- [1] 宮崎やその他の地域（出身地）の方言や文化などを話し合い、地域ごとの違いを分析し、その背景などを考える活動を行った。
- [2] 学生の様子を見ながら、適宜内容を選択していった。
- [3] 学生自身の地域での体験をベースに活性化案をグループでディスカッションしまとめさせた
- [4] 地域が抱える問題とその解決策についてのレポートをライティング課題で出している。
- [5] 地域が抱える問題と解決策を英作し提出させた。
- [6] 地域に関連するお話（民話・神話）をテーマとした。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：7（9%）	2.10%以内：6（8%）	3.10%～20%：9（12%）
4.21%～30%：3（4%）	5.31%～40%：1（1%）	6.41%～50%：7（9%）
7.51%～60%：5（6%）	8.61%～70%：9（12%）	9.71%～80%：2（3%）
10.81%～90%：8（10%）	11.91%～100%：18（23%）	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- | | | |
|----------------------|----------------------|------------------|
| 1.少人数（10人程度）：15（21%） | 2.双方向（対話・討論）：45（64%） | |
| 3.グループワーク：35（50%） | 4.フィールド型：6（9%） | 5.メディア活用：33（47%） |
| 6.TA 活用：13（19%） | 7.その他：12（17%） | |

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：18（23%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：12（16%）
- 3.英語のみで板書している：12（16%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：28（36%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：15（19%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：20（26%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：14（18%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：15（19%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：21（27%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：14（18%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 後期（日本語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 15 (68%) 2. 7 (32%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 15 (68%) 2. 7 (32%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 17 (77%) 2. 5 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 17 (77%) 2. 5 (23%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 14 (64%) 2. 8 (36%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 22 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 18 (82%) 2. 3 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 15 (68%) 2. 6 (27%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (5%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 14 (64%) 2. 7 (32%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (5%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 9 (41%) 2. 13 (59%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：7 (32%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：9 (41%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：5 (23%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観：10 (45%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加：11 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察：0 (0%)
- 4.その他：4 (18%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 7 クラス (順不同)

- [1] 受講生の関心を最初に聞き、それに合った内容を提供するよう心掛けた。
- [2] 対面で、より細かい指導ができた。
- [3] 対面で、細かく指導できた。
- [4] 遠隔授業の工夫
- [5] パワーポイント、遠隔授業の工夫
- [6] 教材パワーポイント、遠隔授業のやり方
- [7] 学生の学力や関心に合わせて授業の進め方を調整した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 7 クラス (順不同)

- [1] 前期のA、後期のBで同じつくりの科目を開講しており、両方受講する留学生も多いため、それぞれに違った内容で新しい知識が得られるように努めている。
- [2] レベルへ差への対応
- [3] 能力、レベル差への配慮
- [4] 学生の能力の個人差への配慮
- [5] 個々の興味の内容を教材に取り入れた
- [6] 個々の能力に合わせて指導
- [7] 教科書以外の内容を学習させることができた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：22 (100%) 2.いいえ：0 (0%) 未回答：0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する：20 (91%)
- 2.読んで理解する：22 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す：15 (68%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる：14 (64%)
- 5.討論する：6 (27%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする：13 (59%)
- 7.その他：0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 8 クラス (順不同)

- [1] 調べたことをレポートでまとめたり、発表した。またそれについてディスカッションを行なった。
- [2] 授業内で自分のもつ日本への関心話を話してもらうとともに、日本語学習者である受講生に各講義回の資料を（講師が可能な限り）を読む学習教材として供与した。
- [3] 学生の趣味や研究についての話をし、お互いを知る時間を作る工夫をした。
- [4] ロールプレイ
- [5] ロールプレイなど
- [6] 簡単な質問のやり取りで、日本語で話す練習を多く取り入れた。
- [7] 調べたことをレポートでまとめたり、発表した。またそれについてディスカッションを行なった。
- [8] ディスカッション、プレゼンテーションを行なった。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：20 (90%) 2.いいえ：1 (5%) 未回答：1 (5%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回：18 (90%) 2.6回～10回：1 (5%) 3.11回～15回：1 (5%)
未回答：0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化：19 (95%) 2.政治・経済・産業：7 (35%)
- 3.自然環境・フィールド体験：12 (60%) 4.その他：0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 7 クラス（順不同）

- [1] 地域をフィールドとした学外学習を行なった。
- [2] 各学部からの先生には宮崎に関係するトピックを提供いただいている。
例) 農学部：地域の特産、地域学部：観光、教育学部：地域の歴史、工学部：宮崎の防災、他
- [3] 都井岬、神社
- [4] 都井岬、安井息軒、神社
- [5] 都井岬、安井息軒
- [6] 地域をテーマとした論文を作成した。
- [7] 地域での体験をテーマとしたスピーチを行なった。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%：0 (0%)	2.10%以内：0 (0%)	3.10%～20%：1 (5%)
4.21%～30%：0 (0%)	5.31%～40%：0 (0%)	6.41%～50%：6 (27%)
7.51%～60%：0 (0%)	8.61%～70%：0 (0%)	9.71%～80%：1 (5%)
10.81%～90%：5 (23%)	11.91%～100%：9 (41%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------------|
| 1.少人数（10人程度）：20 (91%) | 2.双方向（対話・討論）：21 (95%) | |
| 3.グループワーク：14 (64%) | 4.フィールド型：8 (36%) | 5.メディア活用：7 (32%) |
| 6.TA活用：0 (0%) | 7.その他：0 (0%) | |

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている：1 (5%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：11 (50%)
- 3.英語のみで板書している：0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：6 (27%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している：0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している：0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：2 (9%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：1 (5%)